

憲照先生の手本ア・ラ・カルト
(à la carte) (20)

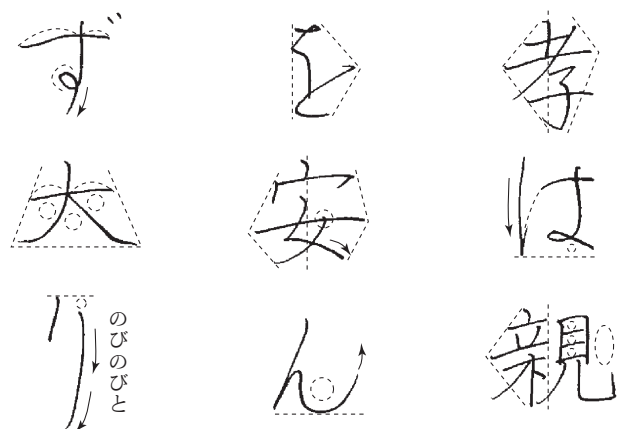
締切り 八月二十五日 (必着)

昭和53年3月

孝は
親を安んずるより
大なるはなし

つけペン・墨汁使用

〔解説〕



- ◎ 本会は、今年で創立六十七周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ 今年の短期特別課題は、昨年に引き続き『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一類を四ヵ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★孝は… (書体Ⅱ楷書)

揚雄(前五三—一八・中国、文人)二千年間、孝道を説明する名言として、東洋の思想を指導して来たものといえるであろう。しかもこれは親子の間に限らず、人と人との間、団体と団体の間、国と国との間の道としても、最も望ましいのは相手の心を安んずることではないのだろうか。

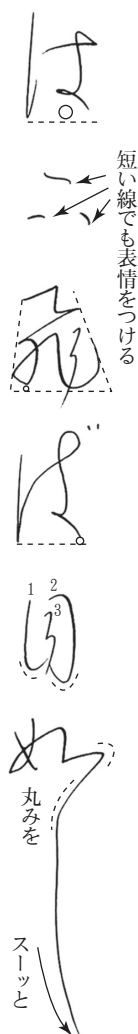
〔作品の出し方〕

- ▼ 今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※ 不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

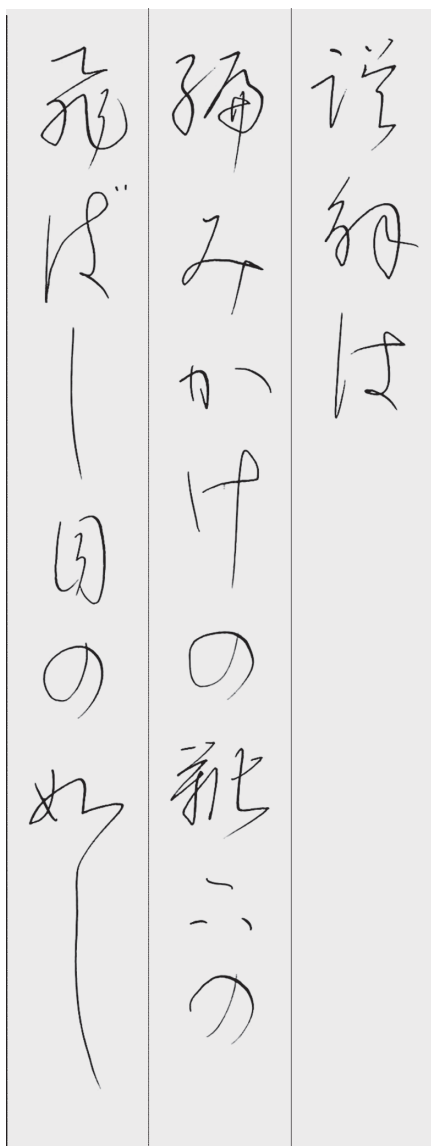
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解 説〕



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

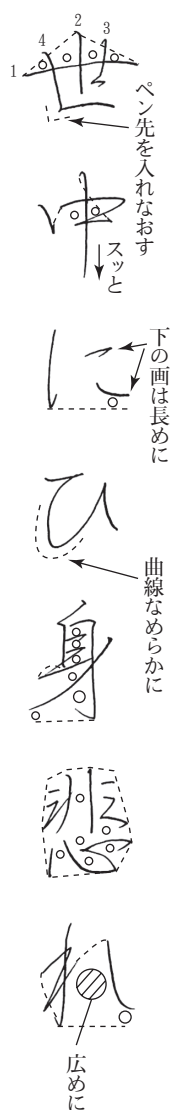


あら い りゅう ほう
新 井 龍 峰 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解 説〕



ふる た ずい えん
古 田 瑞 苑 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★世の中に：
（書体Ⅱ行書）

宗砌（そうぜい）

室町時代中期の連歌師

ひまがある人というのは、いかにも生活にゆとりがあり、幸福そうに見えるものであるが、特にしたいことも、すべきこともないとしたらどうだろう。それはかえって人として悲しく、苦痛でさえあろう。

適度な休息は不可欠であるが、忙しくとも充実した一生を送りたいものである。

◆9月課題予告（楷書）

鶏口となるも

牛後となるなかれ

史記

★誤解は：（書体Ⅱ行草または草書）

ゲート (二七四九～一八三三)

ドイツの詩人・小説家・科学者

「誤解は、編みかけの靴下の一つの飛ばし目の如し、初めに繕えばただ一針で済む」が全文。

誤解も、編み物の飛ばし目のように、気付いた時すぐに処置をすれば、ただ一言、二言（一針、二針）でやり直すことができるが、放置しておいたり、ごまかしたりして進んでいけば後々大変なことになってしまう。まことに見事な比喩である。

◆9月課題予告（行書）

わたしの失敗は

後進者の

成功の土台となる

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範＝行草または草書

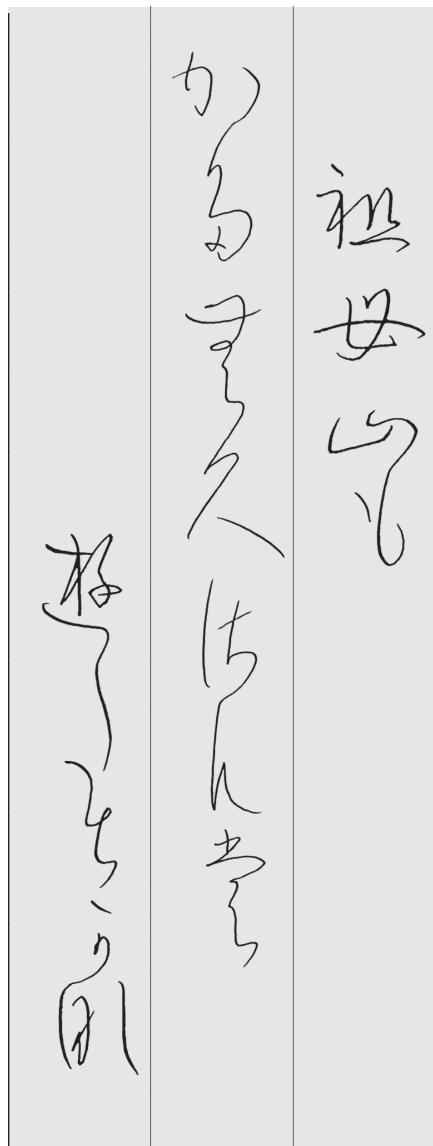
一般部かな課題

締切り 8月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

祖母山も傾山も夕立かな
か多無久佐无 裳遊多ち可那



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

祖母山も傾山も夕立かな
毛可多む久さ无 奈



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

◆9月課題予告

金剛の露ひとつばや石の上

(川端茅舎)

【解説】「へん」は、元の漢字が「无」です。ので、最後のはらいを上にあげずに横へはらって書く事もあります。

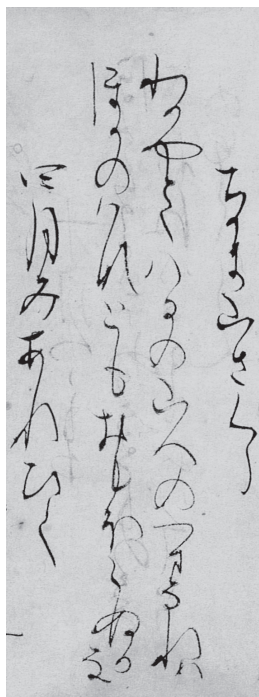
那な 奈な 遊ゆ 無む 毛も
那 奈 遊 無 毛
那 奈 遊 無 毛
那 奈 遊 無 毛
那 奈 遊 無 毛

【古筆参考】

祖母山も傾山も夕立かな
そほさん かたむくさん ゆだち
(山口青邨)
【句解】夕立の雲が湧いてきて、雄大な祖母山も、それに続く傾山も、みるみる夕立におおわれてしまう。あの形の違った二つの山も、今は激しい雨にひとりに降りこめられている。
【鑑賞】山の名を巧みに生かした句。祖母山や傾山の景色を知っていれば一番いいが、知らなくても、その名前が大きな風影を心の中に浮かび上がらせてくれる。〈祖母山〉というどっしりした名と〈傾山〉という少し変わった名の取り合わせがいい。

〔古筆参考〕

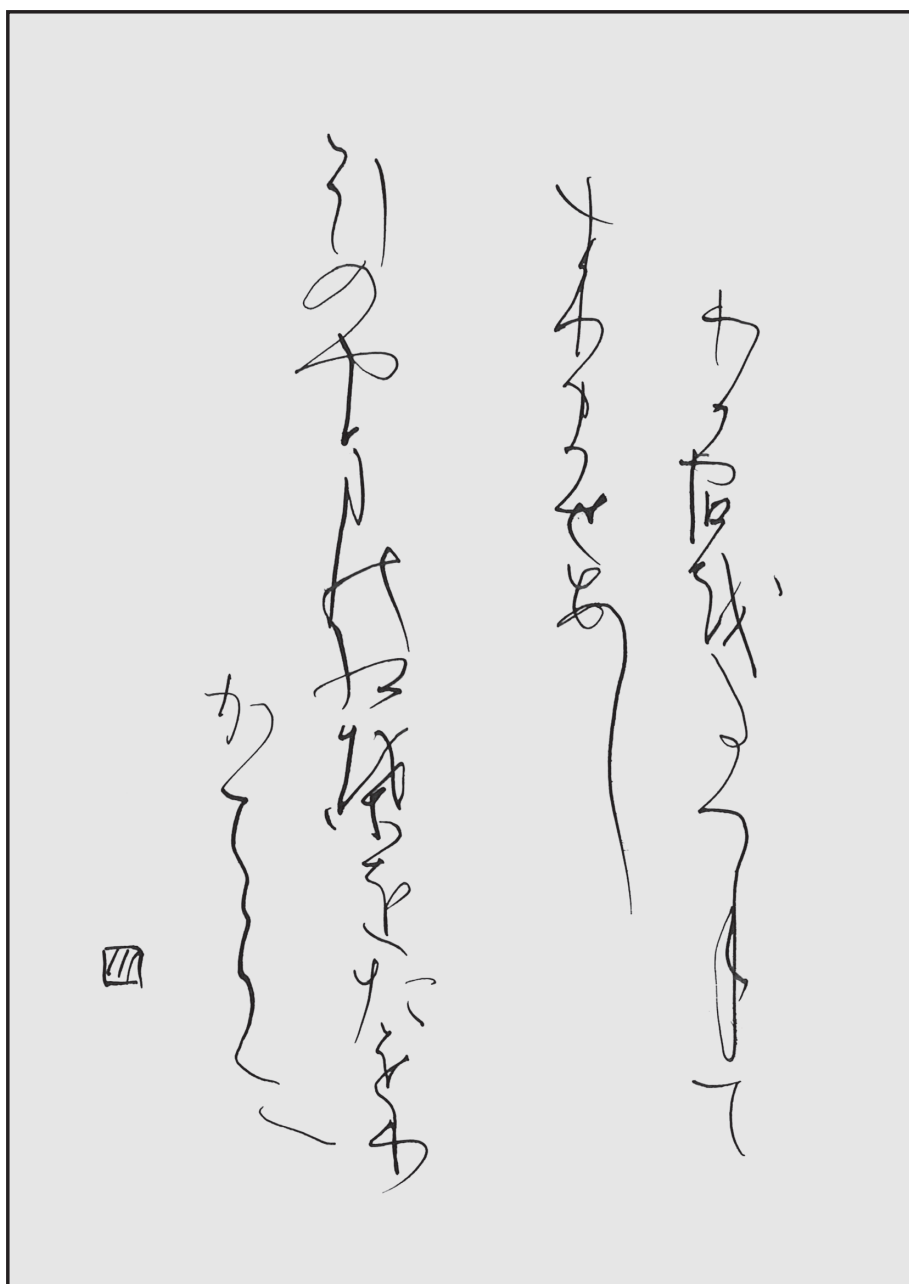
なかつかさしゅう
中務集



ちかき山ざくら
わがやどゝはるの山べのつまなれば
ほかのはなともおもほえぬかな
四月みあれひく

締切り 八月二十五日（必着）

築瀬舟香書



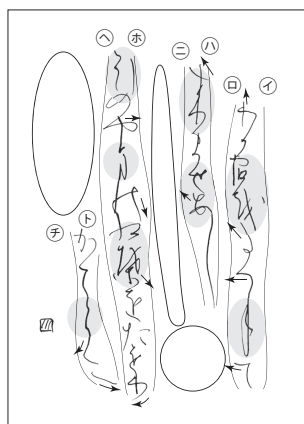
わが宿をたづねて来ませ足引の
山の紅葉をたをりがてらに

〔歌意〕私の家を尋ねていらっしや
い。山の紅葉を折って味いいながら。

〔出典〕近世和歌集

（日本古典文学大系）

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、
①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、
②と③、③と④、④と⑤、⑤と⑥、
⑥と⑦、⑦と⑧、それぞれ呼応。
- 行の密の動き大切。
- 指向性大切。
- 余白大切。

◆9月課題予告

秋風よいたくなく吹きそ足引の
み山も未だ紅葉せなくに

締切り 8 月 25 日(必着)

暦の上では処暑を迎えたとはいえ、
なお夏のなごりの厳しい暑気が
とどまっています。中津川市の山
間の沿道には百日紅さるすべりが花をつけ、
通り過ぎてゆくドライバーの目を
やさしく癒してくれています。

- 作品の出し方
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
 - 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
 - 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
 - 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

暦の上では処暑を迎えたとはいえ、
なお夏のなごりの厳しい暑気が
とどまっています。中津川市の山
間の沿道には百日紅が花をつけ、
通り過ぎてゆくドライバーの目を
やさしく癒してくれています。

横 書 き 課 題

お ぐ 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

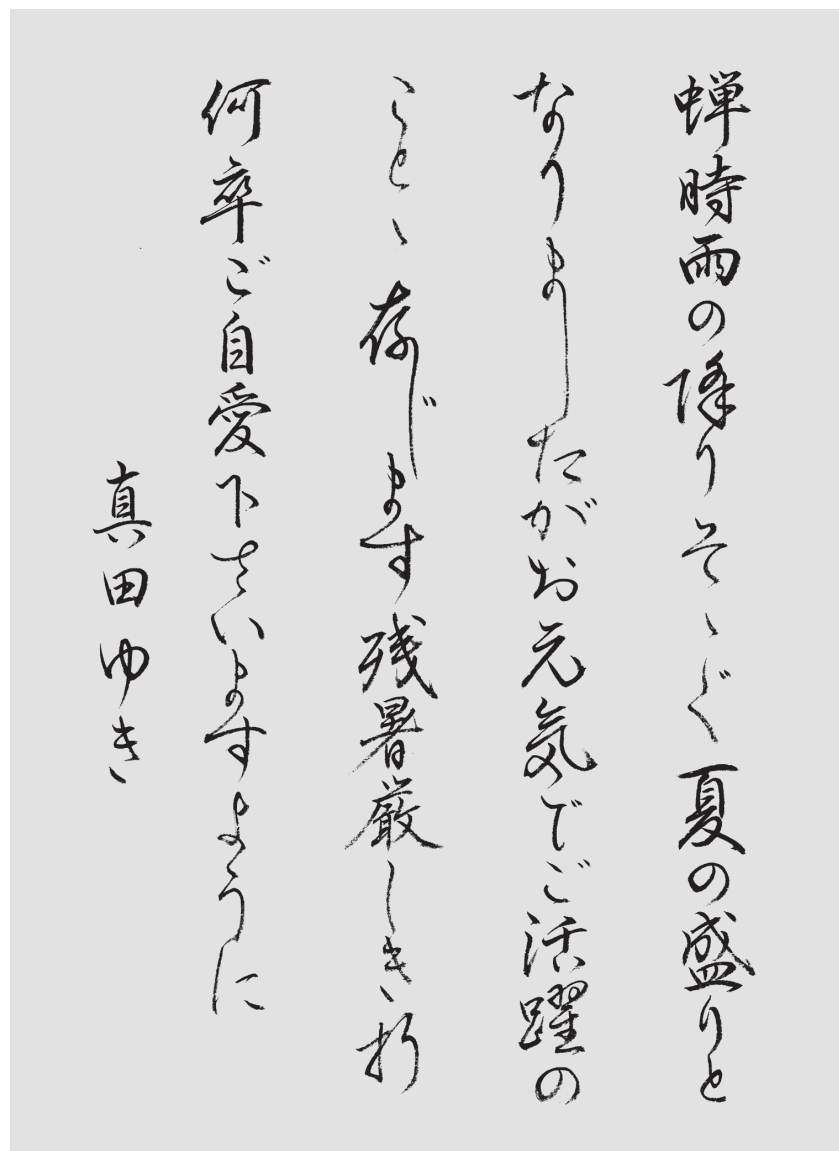
昭和20年8月9日、長崎市街は
原爆の投下により焦土と化した。

大阪府吹田市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

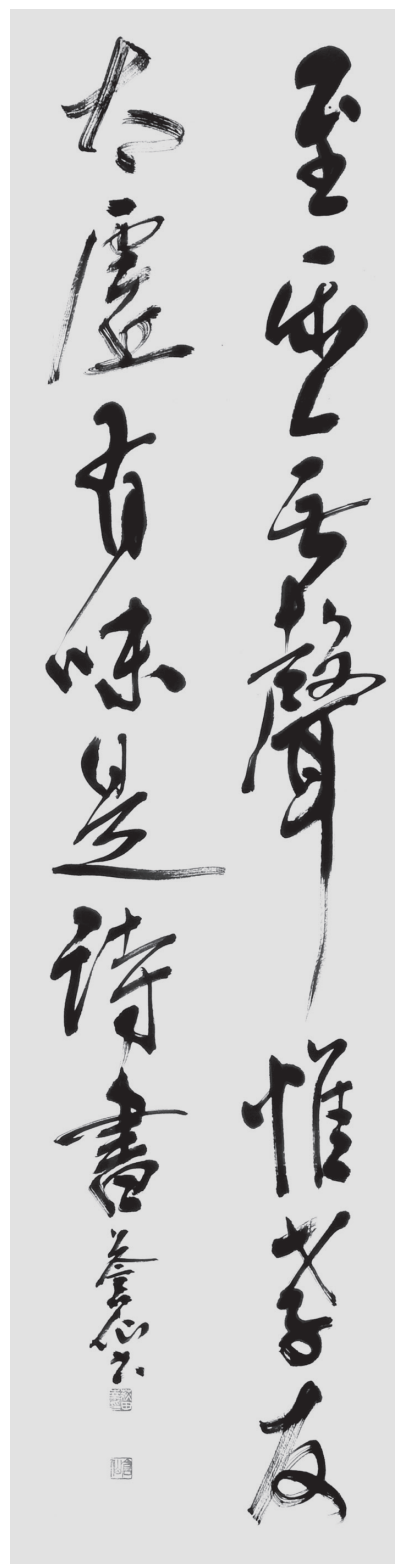
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 八月二十五日 (必着) 半切 (一二六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

至楽無聲惟孝友 太虚有味是詩書

〔条幅解説〕

古典の字をそのままあてはめると、作品が出来上がったような気になりますが、一寸要注意です。それは実用書と異なり、作品は上下左右の字の姿によって形、大きさ、墨量等を考えねばなりません。その為には指導を仰ぐことにより徐々に力がついてきます。即ち実力と妙味を体得します。人生は終生師が欲しいです。

・ 蝉時雨の降りそぐ夏の盛りと
なりましたがお元気で活躍の
こと、存じます 残暑厳しき折
何卒ご自愛下さいますように

(ご自分の氏名)

・ 印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕最高の音楽には音はなく、ただ最高の友情である孝友がある。宇宙の根源には味があつて、それは詩と書である。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

澤

幸
寿
書

清泉石上流

せいせんせきしょうをながる
清泉石上流

〔大意〕清々しい水が、石の上を流れている。

〔解説〕

清泉石上流

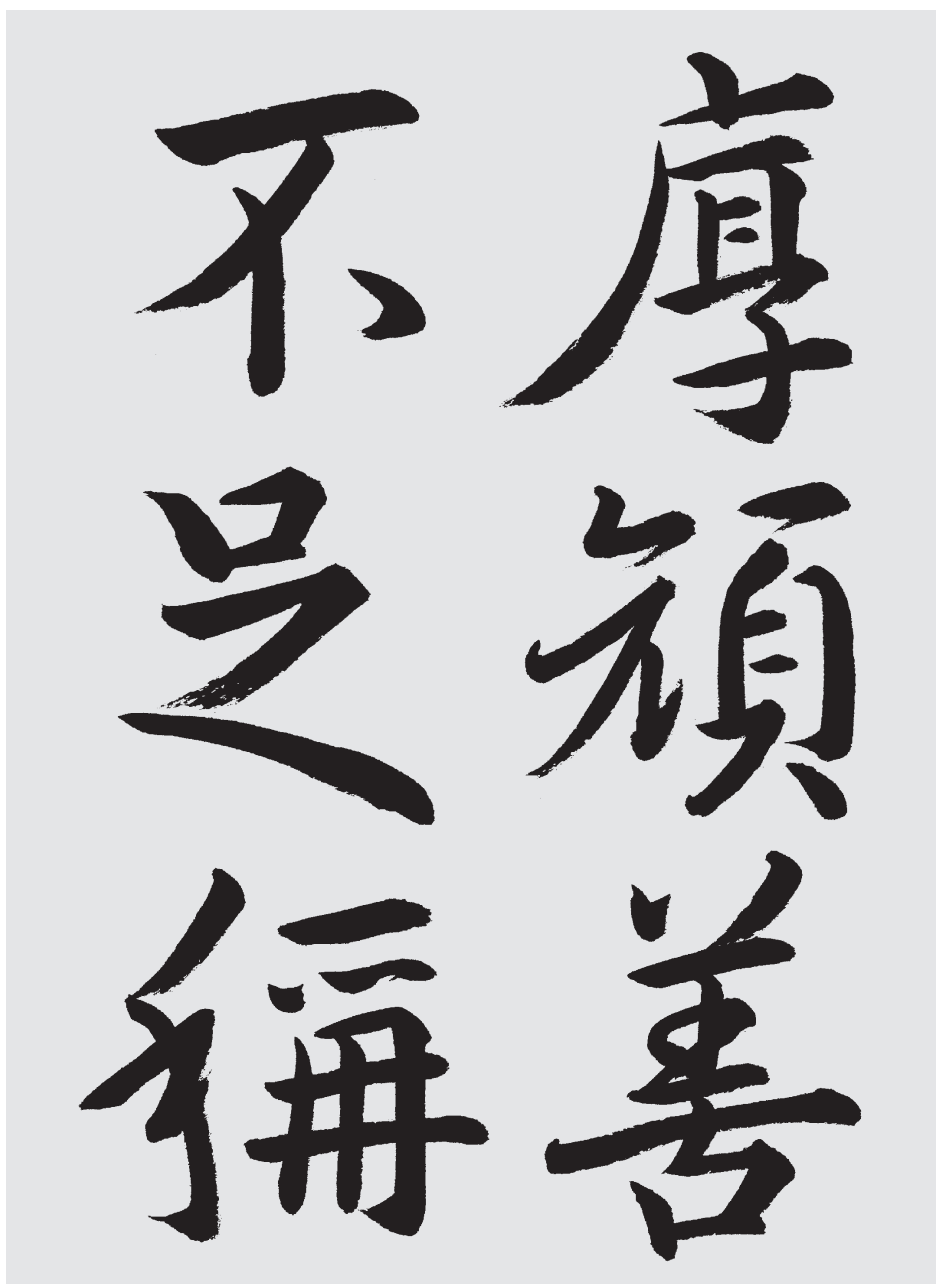
※行書は楷書に比べ、一点一画に力を入れ過ぎないよう軽やかに書きましよう。

◆9月課題予告(楷書)

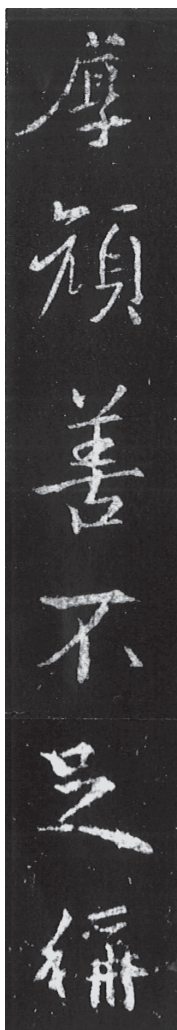
我愛夏日長

準初段から師範まで

須^す田^だ一^{いち}葉^{よう}臨



厚
頤
善
不
足
稱



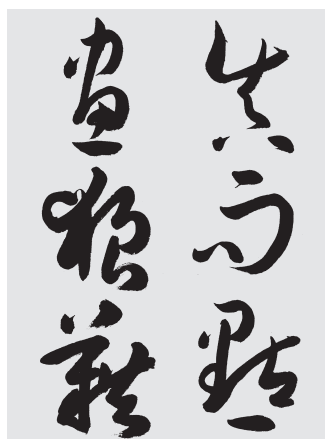
〔出典〕 集字聖教序（六七二）
〔筆者〕 王羲之の法書より集字
〔読み〕 厚^{こう}頤^いを（益^{えき}す。）善^{ぜん}きも称^{しょう}するに足らず。

〔解説〕



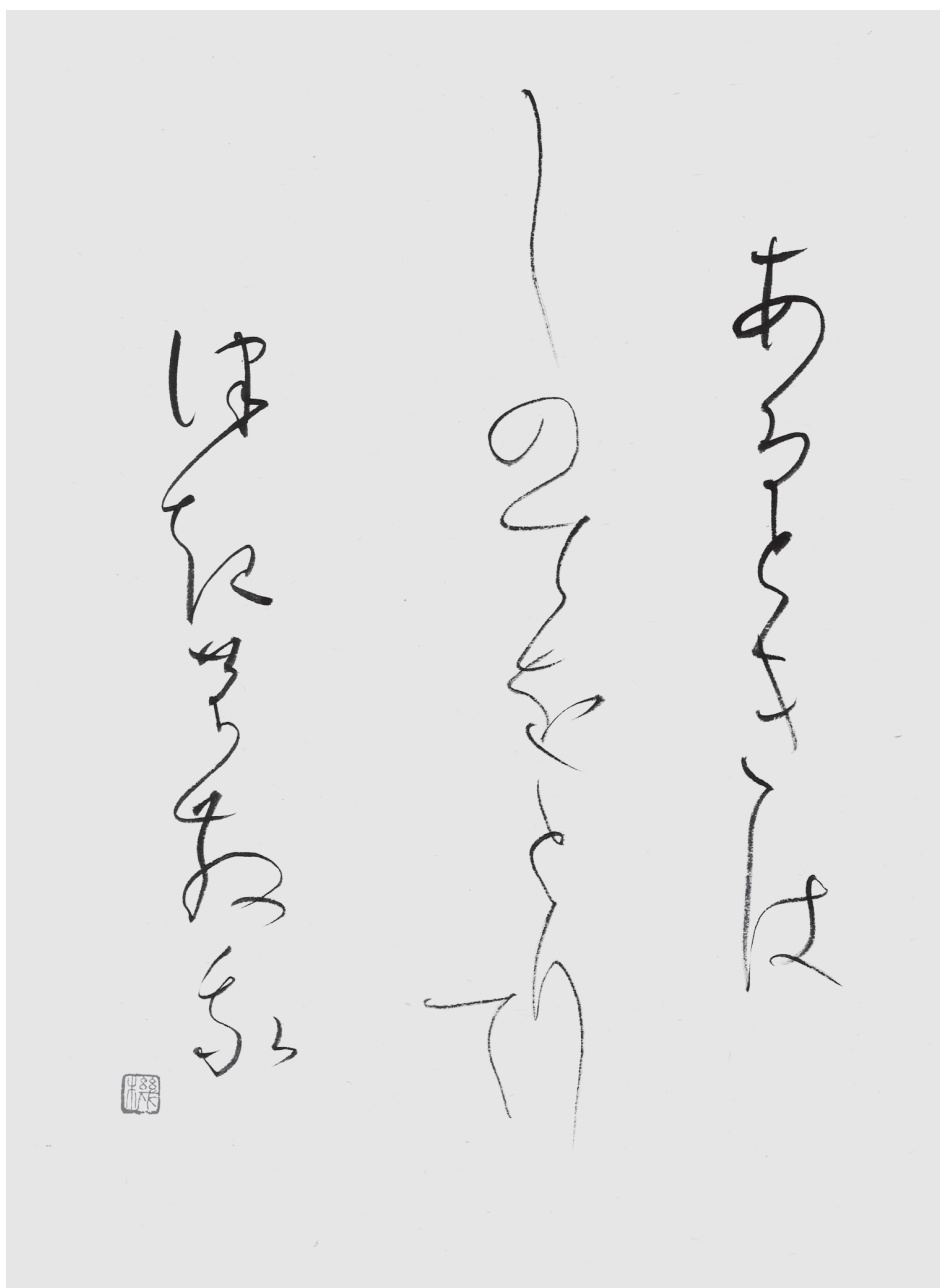
※文献によって字体が異なる場合があります。

◆9月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書



ある時は師の手をとりて月のさか

津起農散我
大橋桜坡子

〔句意〕

信州姨捨での作。姨捨の名月を仰ぐべく急な坂を老師の手を取り、行くのである。師弟の情愛が心を打つ。この師は虚子である。

◆9月課題予告

雁の声のしばらく空に満ち

〔解説〕

上5は、5字とも連綿しています。中7は、長い「し」で始まり3字連綿、2字連綿、行がはみ出して「て」を添えています。

下5は、変体仮名で2字連綿、2字連綿、最後は単体で書いています。

《墨継ぎ》は、第3行の「津起」です。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「あるときは」

連綿線は《省略法》を使ってスッキリしています。「ある」「ると」「きは」です。「とき」の連綿だけは、短い線《短縮法》です。

このように省略法と短縮法を多用すると1行をスッキリ見せることが出来ます。

「しのをとりて」

「し」は、上に突いて《蔵鋒》でバネをかけて、①初めはゆっくり、②少し速く、③更に速く、①②③のリズムで引き下ろします。鋭い切れ味の刀を振り下ろすような気持ちです。

「のてを」は、左右に大きく揺れながら、「とり」は、縦に流れて「し」からの流れをしっかりと受け止めます。

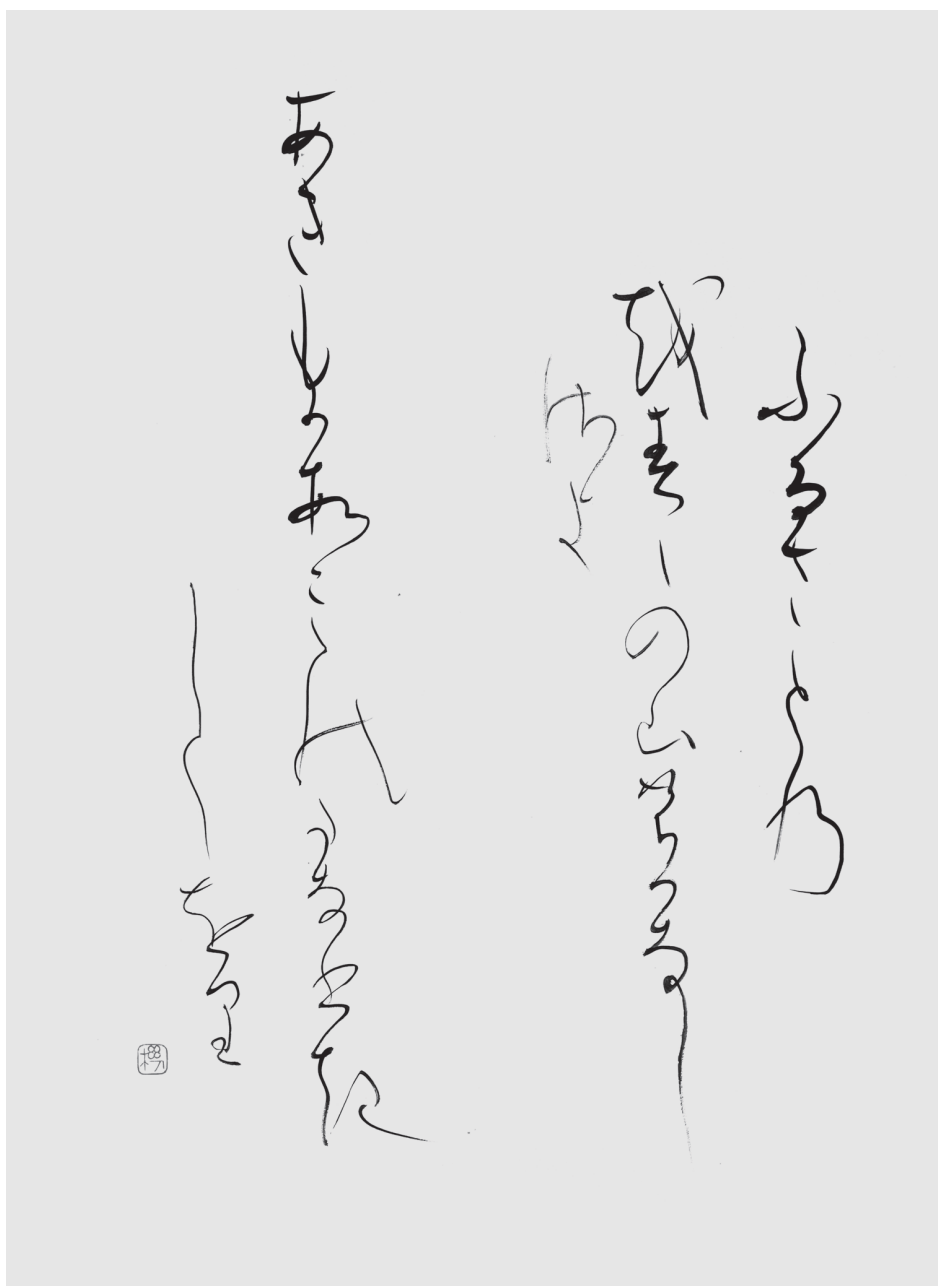
添えの「て」は、「り」の下が空きすぎたら下へ、下の空きがなかったら上へ、適当な位置を探して書き添えます。

「津起農散我」

右2行をよく見ながら、いい位置から書き始め、いい位置で書き収めます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



ふるさとの尾鈴の山のかなしさよ
秋も可数三能多奈悲起弓を里

若山牧水

〔歌意〕

故郷の尾鈴の山の、なんと懐かしいことよ。秋
もなお霞がたなびいている。

◆9月課題予告

見渡せば花も紅葉もなかりけり
浦の苫屋の秋の夕暮

〔解説〕

料紙は、鳥の子(雁皮)に薄紫色の刷毛染めをし、右上と裾に薄青色のボカシを軽く施し、全体にキラ(雲母)を刷毛で引いている。古筆で全体にキラを引いているのは「高野切」に見られる。

右集団と左集団に分かれます。右と左が互いに引き合ってバランスを保ちます。右集団の行頭に大きく3字を配置して華やかさを演じてメインにします。左集団はすくっと立ち上がって微動だにしません。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「ふるさと乃」

「ふ」の最初の点を打ってから素早く曲線に入り、ゆったり回って左の点を跳ね上げ、1呼吸してから右の点から「る」へ連綿します。

「越春、の山農可奈し」

右行より少し上から「越」を大きく書き、「春」は右行の「るさ」を意識して太くしながら、太細の変化を楽しみます。

「佐よ」

かすれて、行間を狭く、大きく「佐」を書き、「ふ、越、佐」3字でそれぞれ変化させながら、華やかさを演出します。

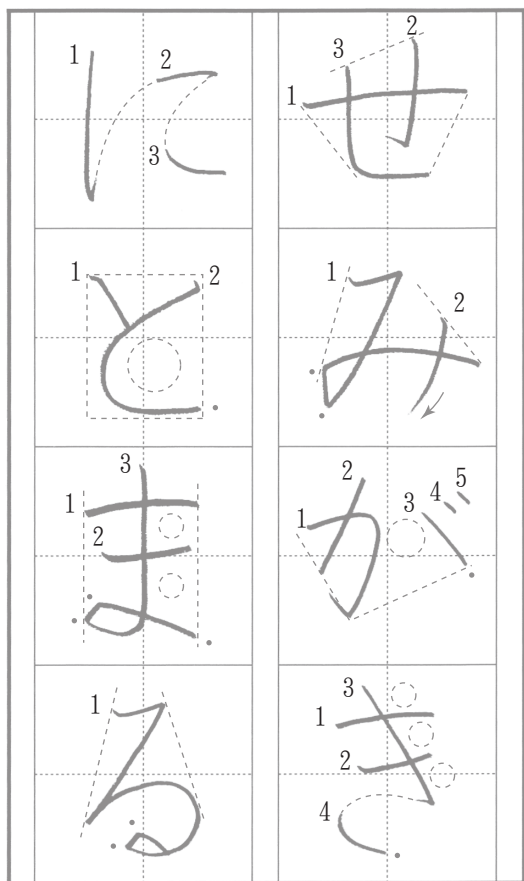
「あきも可数三能多奈悲起」

墨継ぎします。右集団を気にしながら、大きな字は「数、能、起」として上げています。

「弓を里」

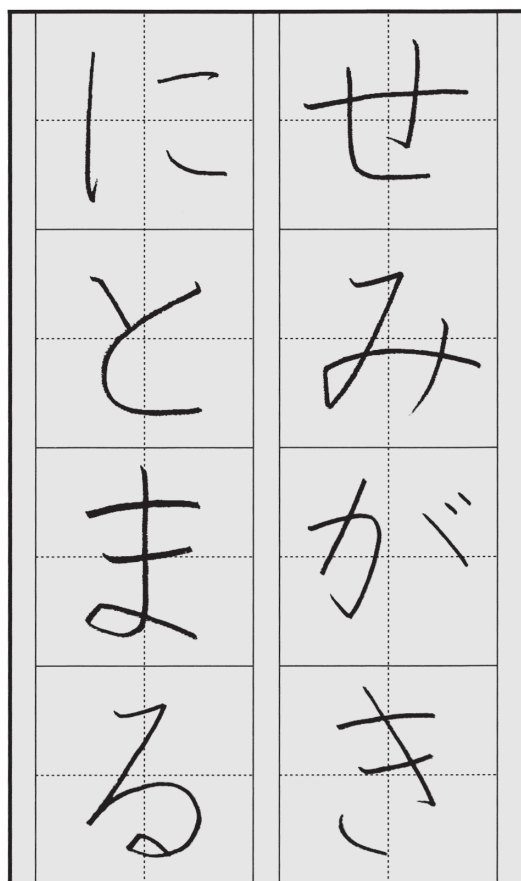
右集団の頭をにらみながら「弓」の書き出しの位置を決め、静かに書き収めます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



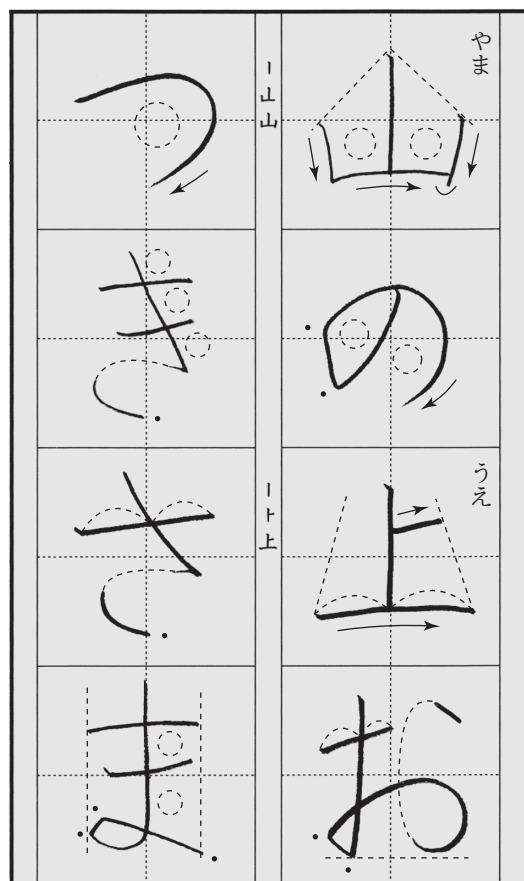
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



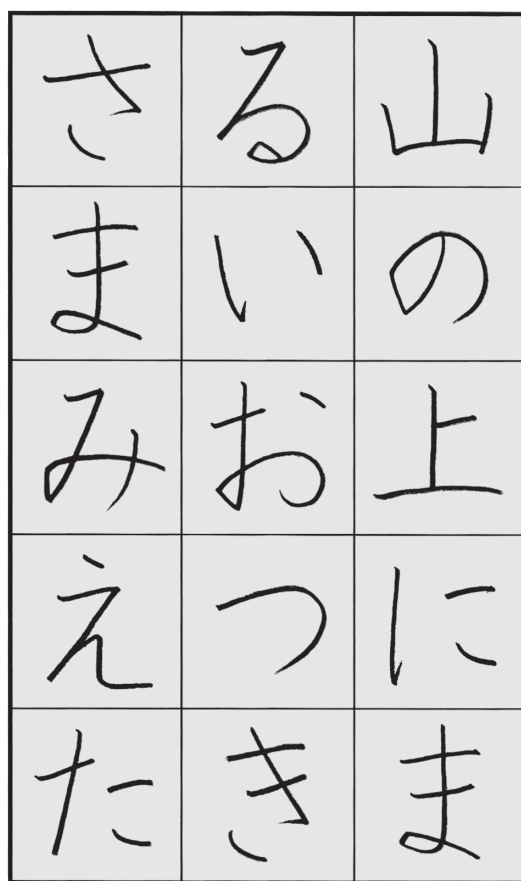
よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

な	一	イチ
絵	日	ニチ
か	す	
く	き	

新入〜1級

の	大	一
絵	す	日
を	き	か
か	な	け
く	花	て

準初段以上

小二年

準初段以上

心	ま	
に	ち	
銀	の	
行	中	

新入〜1級

が	に	ま
あ	駅	ち
り	や	の
ま	銀	中
す	行	心

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

まじり組 鳩場	ジヨウ	場	なつ	夏
ノイナイ 休	ノイナイ 休	休	やす	休
ノイナイ 行	い	行	み	み
ノイナイ 牧	ボク	牧	く	く

新入1級

牧	み	家	小四年 準初段以上
場	に	族	
へ	高	で	
行	原	夏	
く	の	休	

解説(よく見て習いましょう)

シ	何	なに
何	何	何
オホササ 持	も(ち)	事
ト(り)	取	コウ
ク(む)	組	ジヨウ
上	上	上

小四年以上
岡嶋桂川書

り	心	何	小五年 (全員)
組	を	事	
む	持	も	
性	ち	向	
格	取	上	

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

ら	気	発
雨	圧	達
が	で	し
降	朝	た
る	か	低

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

アツ ツ ハツ 発	ハツ 1 2 3 4 5 発
あさ 朝	タツ 達
あめ 雨	テイ 低
ふ 降	キ 気

〈用具〉自由(黒色に限る)

中一年

代	地	姉
表	方	が
選	大	陸
手	会	上
に	で	の

(行書)

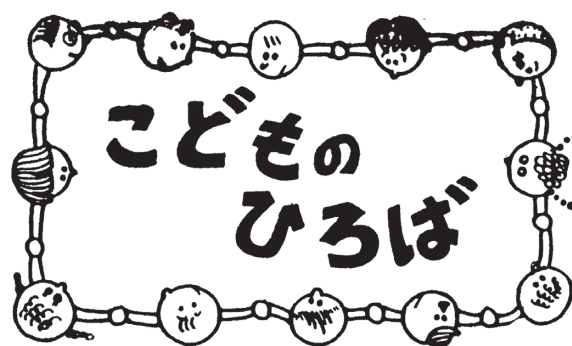
中二・三年 (行書)

登	画	昨
頂	し	年
を	た	か
実	富	ら
現	士	計

▼小三年以下の課題 や 矢 川 智 水 書

夏	工	お	道	教
休	作	じ	具	わ
み	は	い	の	り
の		さ	使	作
		ん	い	っ
		に	方	た
			を	

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 8月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 なか むら すい えん 書
中 村 翠 苑

心	忘	水	期	夏
掛	れ	分	間	の
け	な	補	中	暑
る	い	給	は	い
	よう	を		

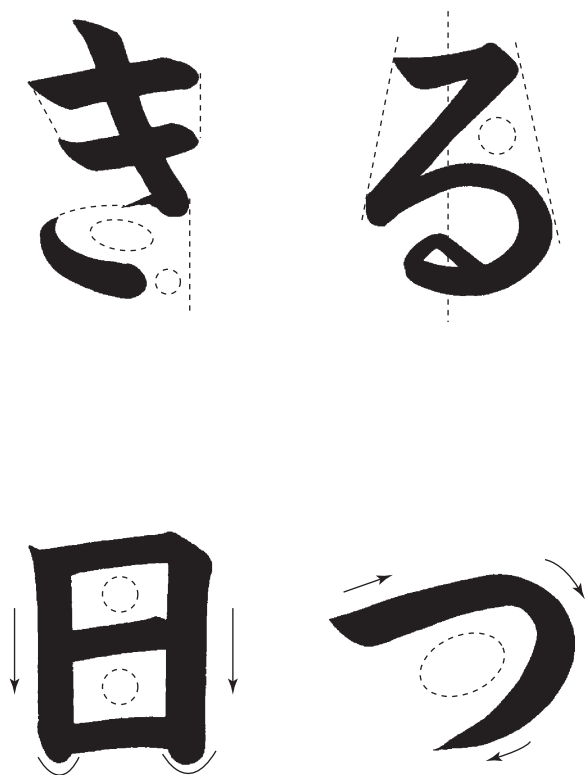
◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

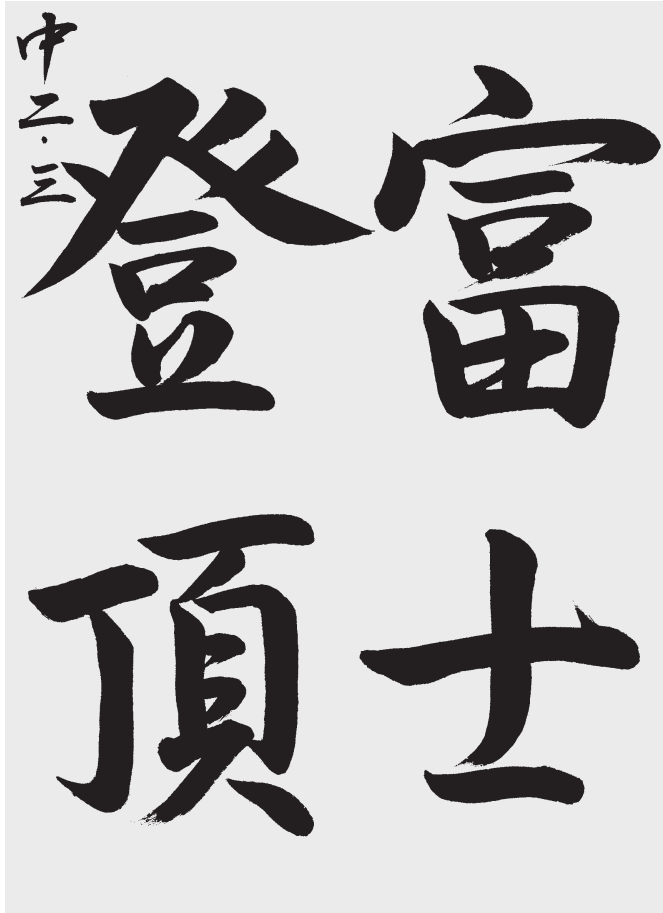


幼年／小二年
酒井智仔書





小三・小五年
水野碧友書



※行書では画のつながりに注意しよう。

小六／中二・三年
玉樹小華書